

植物多様性センターの「マユミの自己剪定」

樹木が休眠する冬は剪定の季節です。大きくなりすぎた木を小さくしたり、日陰で弱くなった枝を除去したり、花や実をたくさんつけるなどの目的で、私たちは剪定という作業をします。じつは、樹木も自分でこっそりいらぬ枝を剪定しています。それが自己剪定です。自己剪定は、クヌギやコナラ、ウワミズザクラなどで、よく知られていますが、学習園正門入ってすぐのニシキギ科の小高木マユミでもご覧になれます。観察してみてください。



マユミの蒴果:種子が落ちた後の果皮が花のように見える



秋に落葉した葉痕:冬芽の下に半円形の小さな葉痕がある



自己剪定のあと:葉痕より大きく丸くえぐれるほど深い落枝痕



自己剪定の枝:基部が太く折れたのではないことがわかる